

2016年11月20日(日)

国際連語論学会会員各位

国際連語論学会会長

高橋弥守彦

国際連語論学会第5回大会についてのお知らせ

標記の件、下記のとおり行われますので、会員各位におかれましては万障お繰り合わせのうえ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

日 時：2017年1月29日(日) 30日(月) 9:00~18:00

会 場：大東文化会館ホール(JR池袋駅より東武東上線各駅停車東武練馬駅下車徒歩4分)

プログラム：別紙参照

第5回大会参加費：500円(会員、非会員共通)

※1. 研究発表者各位におかれましては資料を60部ご用意くださり当日お持ちください。

※2. 研究発表者はメール(添付)で1週間前に発表用の資料を司会者にお送りください。

※3. 年間会費(社会人2000円、院生・学生1000円)を受け付けます。また、新入会員の受け付けも致します。

※4. 学会誌：当日は年間会費をお支払いの会員の皆様に学会誌(『研究会報告第40号』)をお渡しいたします。

※5. 懇親会：国際連語論学会名誉会長鈴木康之先生を囲んでの懇親会です。(日時：1月29日(日) 18:00~20:00 場所：大東文化会館K-402 会費：1000円)

※6. 特別プログラム(講演)

今回は国際連語論学会研究発表のため、中国から多くの研究者が参加してくださるので、鈴木康之(大東文化大学名誉教授、元博士課程指導教授)、田中寛(大東文化大学教授、元博士課程指導教授)、須田義治(大東文化大学博士課程指導教授)の講演による別紙のような特別プログラムを組ませていただきました。お時間のある方は奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。心から歓迎いたします。

※7. 司会、研究発表者、シンポジウム発言者の皆様に対しては、担当当日分だけ粗餐(昼食)をご用意させていただきます。 以上

国際連語論学会第5回大会のお知らせ（2016年度）

日時：2017年1月29日（日）、30日（月）午前9時より午後6時まで
会場：大東文化会館ホール（JR池袋駅より東武東上線東武練馬駅下車、徒歩4分）
第5回国際連語論学会大会参加費：500円（29、30日共通、会員・非会員共通）

国際連語論学会第5回大会29日（日）プログラム（2016年度）

- 受付（9：00～） 総合司会 劉爾瑟（大東文化大学博士後期課程）
- 開会の辞** 鈴木泰（専修大学） 9：30－9：40
1. 清朝の中国語における“把”構文の変遷について 9：40－10：15
小路口ゆみ（大東文化大学博士後期課程）
2. 存現文再考 神野智久（大東文化大学博士後期課程） 10：15－10：50
以上司会 大島吉郎（大東文化大学）
- 休憩**（15分：10：50－11：05）
3. 連体形をとる「してある」について—終止形との比較を通して 11：05－11：40
迫田（呉）幸栄（名桜大学）
4. “就”，“就要”と“快”，“快要”の比較研究 11：40－12：15
王慶（九州外国語学院） 以上司会 丁鋒（大東文化大学）
- 昼休み**（60分 近くにレストラン多数あり） 12：15－13：15
- 特別講演**
- ① コトバのしくみの原理・原則 13：15－14：15
鈴木康之（大東文化大学名誉教授）
- ② 比較、対比をめぐる副詞（句）と発話意図—「まして」「いわんや」、「とは裏腹に」
などを中心に— 田中寛（大東文化大学大学教授） 14：15～15：15
- ③ 連体形のアスペクトについて 15：15－16：15
須田義治（大東文化大学教授）
以上司会 王学群（東洋大学）
- 休憩**（15分：16：15－16：30）
5. 程度表現の対照研究—陳述のモダリティ表現 16：30－17：05
時衛国（愛知教育大学）
6. 人間の変化を表す連語に関する一考察 17：05－17：40
彭広陸（中国・東北大学秦皇島分校） 以上司会 続三義（東洋大学）
- 閉会の辞** 王亜新（東洋大学） 17：40－17：50
- 懇親会 大東文化会館 K-402 司会 高橋弥守彦（大東文化大学） 17：50－20：00
- ※学会費、当日の入会申し込み及び学会費（年会費：社会人2000円、院生1000円）
※懇親会費1000円（学会の諸先輩を囲んで楽しく語りあいましょう）

国際連語論学会第5回大会30日プログラム (2016年度)

日時：2017年1月30日(月) 午前9時より午後6時まで

第5回国際連語論学会大会参加費：500円(29, 30日共通、会員・非会員共通)

- 受付(9:00～) 総合司会 神野智久(大東文化大学博士後期課程)
- 開会の辞 須田義治(大東文化大学) 9:20-9:30
1. 助動詞“要”の研究—《骆驼祥子》を中心に— 9:30-10:05
蘇秋韵(大東文化大学博士前期課程)
2. 戦後の善隣書院の歴史と『改定急就篇：会話篇』の語彙分析 10:05-10:40
—単語の章を中心に— 永野千絵(中山大学中国語言文学系博士研究生)
以上司会 竹島毅(大東文化大学)
- 休憩(10分:10:40-10:50)
3. “被字句”における仕手について 10:50-11:25
劉爾瑟(大東文化大学博士後期課程)
4. 場所義格助詞「まで」の本質義への考察 11:25-12:05
—場所義介詞“到”との比較を通して— 趙鑫(上海外国語大学 博士後期課程)
5. 新聞社説における結束性の日中対照研究 12:05-12:40
—省略表現を中心に— 単艾婷(九州大学 博士後期課程)
以上司会 石井宏明(東海大学)
- 昼休み(60分 近くに食堂多数あり) 12:40-13:40
6. 中国人日本語学習者による三字の漢字語の学習について 13:40-14:15
—二つの意味に分けられるものを対象に— 何龍(愛知淑徳大学)
7. 初級学習阶段的汉语习得特点和男女差异 14:15-14:50
—以日本留学生为例— 楊玉玲(北京外国語大学)
8. 韓国と日本の高校国語教科書の語彙対照研究 14:50-15:25
李美淑(韓国明知大学稿) 以上司会 時衛国(愛知教育大学)
- 休憩(15分 15:25-15:40)
9. 「が格」の有情物と存在動詞「ある」で作る存在文 15:40-16:15
—中国語訳存在文における数量詞の有無— 洪安瀾(閩南師範大学)
10. 中国語の「動詞+時量詞+(的)+目的語」構文のアスペクト性について 16:15-16:50
福本陽介(名古屋産業大学)
11. 連語論から見る中日両言語—位置移動の動詞“下+客体”— 16:50-17:25
高橋弥守彦(大東文化大学)
以上司会 安本真弓(高千穂大学)
- 閉会の辞 彭広陸(中国・秦皇島分校) 17:25-17:35
- ※学会費、当日の入会申し込み及び学会費(年会費:社会人2000円、院生1000円)

司会：2017年1月29日（日）

大島吉郎（大東文化大学）pal1kdz@yahoo.co.jp

丁鋒（大東文化大学）fengd0761@ic.daito.ac.jp

王学群（東洋大学）Lwn365@yahoo.co.jp

続三義（東洋大学）：xu_sanyi@toyo.jp

※研究発表者およびテーマと要旨

1. 小路口ゆみ（大東文化大学博士後期課程）

テーマ：清朝の中国語における“把”構文の変遷について

——『語言自邇集』・『北京官話伊蘇普噲言』・『官話指南』を中心に比較分析

要旨：『語言自邇集』・『北京官話伊蘇普噲言』（以下『伊蘇普噲言』と略称）・『官話指南』はそれぞれ1867年、1878年、1881年に出版された中国語のテキストである。初め南京語であったのが北京官話の教育に変わったのが明治九年九月から、というのもその頃北京官話の教科書がなかったである。これらの教科書は重要な役割を果たした。これらの言語資料における“把”構文を調査・分析することによって、当時に“把”構文はどのように使われていたかわかると言えるだろう。『語言自邇集』における“把”構文は141例あり、『伊蘇普噲言』における“把”構文は270例あり、『官話指南』における“把”構文は260例あり、“將”構文は23例みられる。これらの“把”構文を照らし合わせて、“把”構文の文構造及び副詞・能願動詞・接続詞の位置を分析する。さらにそれらの現象の理由について、連語論の観点から追究する。

2. 神野智久（大東文化大学博士後期課程）

テーマ：存現文再考

要旨：本発表は、認知言語学の観点から存現文の定義と体系を分析することを目的とする。存現文の研究は、これまで多くの蓄積があるが、その多くが言語事実に基づいた内省判断に依る分析であり、厳密さに欠ける。そこで、本発表は理論的な観点から、より厳密に存現文を定義づけ、なぜ存現文に体系が与えられるのかを説明する。

3. 迫田（呉）幸栄（名桜大学）

テーマ：連体形をとる「してある」について—終止形との比較を通して

要旨：本発表において、終止形をとる「してある」と、連体形をとる「してある」の前にくる名詞の格標示の分布がおおきく異なる事象について紹介する。「してある」が使われる文の構造（タイプ）と、もともとなる動詞の種類によって、「してある」は大きく2つのタイプに分けられることができる。「視覚的にとらえられる具体的なものの、ある状態での存在」をあらわす「してある」の終止形の使用では、「机に コップが おいてある。」のような文構造をもつ文がもっとも多い。しかし、連体形の場合は、「机に おいてある + コップ」を除くと、「コップを おいてある + 机」のような構造をもつ使用例がもっとも多い。

例1)「机に コップが おいてある。」(いいおわり文) →

構造A「机に おいてある コップ」(連体動詞句)

構造B「コップが おいてある 机」(連体動詞句)

例1) のいいおわり文に対応する、連体動詞句と名詞とのくみあわせの構造において、「コップ」(存在の主体)を規定するのか、「机」(ありか)を規定するのかによって、A「Nにしてある+N」(どこどこに~してある+なになに)とB「N(が・を・の)してある+N」の2つの構造がなりたつ。構造Bには、さらに以下のような下位構造がある。

「コップが おいてある 机」→「Nがしてある+N」構造B_が

「コップを おいてある 机」→「Nをしてある+N」構造B_を

「コップの おいてある 机」→「Nのしてある+N」構造B_の

連体動詞句の内部構造にみられるこのちがいに注目してみると、「Nをしてある+N」構造B_をと、「Nのしてある+N」構造B_のの使用例が多く、共に「Nがしてある+N」構造B_がの2倍以上の使用例があった。このことから、終止形よりも連体形の「してある」の使用に「他動性・はたらきかけ性」が残っていると考えられる。

なお、連体形のかたちをとる「してある」の前にくる名詞の格表示の全体的な分布をみると、構造Aの「~に」が一番多く、次に「~を」(構造B_を)、「~の」(構造B_の)、「~が」(構造B_が)の順であられる。

4. 王慶(九州外国語学院)

テーマ：“就”，“就要”と“快”，“快要”の比較研究

要旨：本発表では、中国語の時間副詞“就”，“就要”，“快”，“快要”と“了”の共起状況および同じ時間副詞の「马上」「立刻」「眼看」との連続生起の容認可能性判断を通し、従来の「主观化假设」に疑問を感じ、新たな解釈を試みる。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (1) a. 我就要到北京了。 | (2) a. ?我就到北京了。 |
| b. 我快要到北京了。 | b. 我快到北京了。 |
| (3) a. *我就到北京。 | (4) a. ?我马上就到北京。 |
| b. *我快到北京。 | b. *我马上快到北京。 |
| (5) a. 我马上去北京。 | (6) a. 我马上就要到北京了。 |
| b. *我马上快去北京。 | b. 我马上快要到北京了。 |
| (7) a. *我立刻就要到北京了。 | (8) a. *我眼看就要到北京了。 |
| b. *我立刻快要到北京了。 | b. *我眼看快要到北京了。 |

特別講演

- ① 鈴木康之(大東文化大学名誉教授)：テーマ「コトバのしくみの原理・原則」
要旨：「言語資料収集」の重要さと「言葉は現実を反映する」という観点と「言葉の体系」から連語論について述べる。

- ② 田中寛(大東文化大学教授)：テーマ『比較、対比をめぐる副詞(句)と発話意図—「まして」「いわんや」、「とは裏腹に」などを中心に—』

要旨：言語表現の中では比較、対比の諸表現はある種の範疇的体系をなしている。比較にも優劣、類似、対等、対比などのカテゴリーカルな成分が見られ、伝達判断の不可欠な要素でもある。発表では「まして」「いわんや」などの比較・対比に関する表現をとりあげ、それらの文脈に内包する〈感情的な接続要素〉の意味機能を議論する。また、「かえって」「逆に」「はんたいに」「むしろ」などの展開的な副詞の意味機能、さらに比較・対

比に関連して、動詞性接続辞「に比して」「と比べると」、および「どころか」「とは反対に／とは逆に」「とは裏腹に／とは対照的に」などの複合辞の意味と機能について記述を試みる。比較・対比は単に事態の提示のみならず、後文において主張すべき事態、内容を補完する重要な言表行為であることを主張する。これらの表現指向には主体の事態観察と主観の主張が含意されており、複文のなかでも特異な言表姿勢を構成していることを確認する。

③ 須田義治（大東文化大学教授）：テーマ「連体形のアスペクトについて」

要旨：文の終止の位置と違い、連体において、動作の継続を表すときは、「走っている車」と「走る車」のように、また、変化の結果の継続を表すときは、「にごっている水」と「にごった水」のように、継続相と完成相が競合する。このような場合、二つのアスペク的な形が、どのように使われているかを記述的に明らかにする。

※研究発表者およびテーマと要旨

5. 時衛国（愛知教育大学）

テーマ：程度表現の対照研究——陳述のモダリティ表現

要旨：本研究は、中国語と日本語における程度表現について、発話・伝達のモダリティの一つと思われる陳述のモダリティ表現を中心に考察し、両言語の共通点と相違点及びそれぞれの文法的特質を究明することとする。両言語の程度副詞はいずれも、陳述のモダリティ表現と共起できるという点では、全く共通している。しかし、多くの相違点も見られる。中国語では、極点に達する程度性を表わす副詞も、基点に近い程度性を表わす副詞も、共通した修飾範囲を持っている。たとえば、“他〔極/有点〕悲伤地注视着前方”の場合、“極”“有点”はいずれも“悲伤”という形容詞を修飾できる。一方、日本語の<少し><ちょっと>などは、「彼は{少し/ちょっと/?極めて}悲しそうに前の方を見詰めている」のように、共起できるという点では、中国語の“有点”と同じである。ところが、<極めて>は「悲しい」という形容詞を修飾しにくい。この点では“極”とは大きく違っている。また、両言語の程度表現は、量的修飾や否定命題修飾などの点においても、多くの相違点が見られる。陳述のモダリティ表現における両言語の共通点と相違点の究明は、両言語の程度表現の特質の認識の一助とする。

6. 彭広陸（中国・東北大学秦皇島分校）

テーマ：人間の変化を表す連語に関する一考察

要旨：「幼稚園を卒園する」「大学を卒業する」「会社を退職する」「自民党を離党する」などのような組み合わせは、人間の変化を表すものである。精確に言うと、人間の社会的関係の変化（人間がある組織との関係を終結させること）を表すということになる。それに対して、次のような「卒業する」をカザラレとする連語は、人間の状態の変化を表すものだと言ってよかろう。

(1) AKB48のメンバーで1月25日に研究生に”降格”した早乙女美樹が、同グループを卒業することを18日の公演、及び公式ブログで発表した。

(2) ツアー行程は2ヶ月以上続き、29の都市を訪れることになっていた。バンド

はシアターを卒業し、より巨大なスポーツ・アリーナで公演を行うことになっていた。

- (3) 若さを卒業せぬまま 21 歳で戦死した彼の文は、一冊の『武器を理解せよ 傷を理解せよ』
- (4) また生活に余裕ができたのでしょうか、仕事、仕事で追われていた人生を卒業してほっとされているのでしょうか。山に登る人の年齢層にも変化がおきています。

前者の連語では、カザリ名詞が組織名詞に限られているし、ヲ格の形を取ることになっている。前者の用法から派生してきた後者の連語では、カザリ名詞は、抽象名詞を中心に、カテゴリカルな意味への制限が緩いのみならず、次のようにカラ格の形を取ることとも可能である。

- (5) 男の子は母親のスキンシップから卒業するのはやいですから、今の内だけですよオモイッキリ、べたべた甘えて来るのも。
- (6) 楽しい時間を過ごすのは結構だが、非常識なふるまいからは卒業すべきだろう。(https://www.bengo4.com/saiban/1139/n_2659/)
- (7) それと同時に、我が国もかつては発展途上国でございまして、ようやく発展途上国から卒業したような地位でございます。
- (8) そして母は、価値観の相違という大きな隔たりのなかに、母から卒業し自立していこうとするぼく of 精神を感じていた。

本発表は、上記のような現象を手掛かりに、人間の変化を表す連語を中心に、実証的な研究を行うこととする。

司会：2017年1月30日（月）

竹島毅（大東文化大学）：sisi@kkd.biglobe.ne.jp

石井宏明（東海大学）：shihong_0730@yahoo.co.jp

時衛国（愛知教育大学）：shicheng@aecc.aichi-edu.ac.jp

安本真弓（高千穂大学）：yasumoto@cap.ocn.ne.jp

※研究発表者およびテーマと要旨

1. 蘇秋韻（大東文化大学博士前期課程）

テーマ：助動詞“要”の研究—《骆驼祥子》を中心に—

要旨：《骆驼祥子》は 1936 年に老舍によって発表された現代北京語を代表する作品であり、清末の北京語と現代中国語との中間時代の資料と考えられている。当書には北京現地の話し言葉を反映しており、当時の北京の風土人情についても描写し、当時の言葉を研究する上で重要な研究資料として知られている。本稿に用いられるのは 1982 年 5 月に人民文学出版社から出版された《老舍文集(第三卷)》の版である。本版には全部で 24

章がある。

筆者は当時の“要”の使用状況を研究するため、《骆驼祥子》を言語資料とし、“要”を中心の調査を行い、当書に現れた「助動詞“要”」の用例、「動詞“要”及び語素として」の用例、「接続詞“要”及び語素として」の用例、並びに「その他」の用例について分析し、民国時期の助動詞“要”の使用傾向と特徴の一端について検討する。

2. 永野千絵（中山大學 中国語文学系 博士研究生）

テーマ：戦後の善隣書院の歴史と『改訂急就篇：会話篇』の語彙分析

——「単語」の章を中心に

要旨：『急就篇』とは、宮島大八によって善隣書院から発行された中国語会話教科書のことである。初版は『官話急就篇』として明治37年（1904）に出版されたが、後に『急就篇』と改められ、中国語学習のバイブルとして終戦ごろまでに200版近くを重ねた。大八の死後、長男の貞亮は『改訂急就篇：会話篇』（1960）（以下『会話篇』）を出版し、原作を尊重しつつも時代に合わせて再構成した。本研究では、まず善隣書院現院長への取材から当院の戦後史を時間軸で追い、『会話篇』の成立した時代の社会背景を探った。次に『急就篇』71版（1944）と『会話篇』5版（1972）（いずれも現在確認できる内の最終版）を、全体構成と語彙方面から比較した。

『会話篇』の構成面における特徴は、発音や文法指導において解説が加えられたこと、巻末に日本人が間違えやすい漢字や単語の一覧が設けられたこと等にある。語彙においては、①収録単語数が大幅に減少し内容も一新された。②多くの繁体字が簡体字に改められた。③一部の漢字が別の漢字で表記されるようになった。④r化された語は依然多い。⑤北京方言の出現数が減った。⑥士大夫層の言葉からより庶民的な言葉に改められた。⑦現代中国語との差異が少ない、等と言える。

3. 劉爾瑟（大東文化大学博士後期課程）

テーマ：“被字句”における仕手について

要旨：本稿では、中国語の受動表現として最もよく使われている「介詞標記の受動表現」、いわゆる“被字句”の構文構造を全部で4種類に分けている。そして、“被字句”の基本構造「名詞1+“被”+（名詞2+）動詞+その他」を研究対象とし、仕手の役割を果たす名詞2について考察する。高橋（2012A）では、「仕手」を「ヒト、モノ、コト、カラダ、組織」の5種類に分けている。本研究はまず、実例を考察することに基づき、この分類を検証する。さらに、“被字句”の仕手がいつ省略できるか、いつ省略できないかについて検討する。以下の例文を見てみよう。

(1) 小家伙特别调皮，那么高的窗户玻璃都被她打碎了，也不知她是怎么弄的。（2000年人民日报）

ちびちゃんはとてもやんちゃで、そんなに高いところにある窓ガラスを割ったなんて、どうやってやったのかしら。（筆者訳）

(2) 那个安放在收音机上端的小酒盅，最后还是让我给打碎了。（余华：在细雨中呼喊）
ラジオレコーダーの上においてあった小さき盃は、私が落として壊して（私に割ら

れて) しまった。(筆者訳)

- (3) 队长的丈母娘都叫他撵跑了。(戴厚英：流泪的淮河)

隊長のお義母さんまで彼に追い出された。(筆者訳)

- (4) 哼，人都给他杀了，凭你轻描淡写的几句话，使能令死人复生么？(金庸：倚天屠龙记)

ばかやろう、彼に殺された人は、あんたの軽い一言で、生き返られるの？(筆者訳)

- (5) 特鲁西耶于4月9日返回位于日本东京的家，结果发现公寓的窗户被打碎了，屋内丢失了现金。(新华社2002年4月份新闻报道)

トルシエは4月9日に日本東京の家に戻ったら、マンションの窓が割れて、部屋の中に置いてあるお金がなくなったということに気付いた。(筆者訳)

- (6) 后来，长安攻下来了，王莽也给杀了。(北京大学中国语言学中心语料库)

のちほど、長安は陥って、王莽も殺された。(筆者訳)

例文(1)から(6)までは受身マーカー“被/让/叫/给”を用いる“被字句”である。受身マーカーは、受け手主語に働きかける動作や影響の仕手を導き出す役割を担うが、必ずしも仕手が受身マーカーの後に現れるわけではない。言語資料を調べると、例文(5)と(6)のような“被”“给”の後に付く仕手を省略する文は多々見られるが、“让”“叫”の後に仕手を省略する文は一つも見つからない。なぜ“被”“给”を用いる受動表現では仕手の省略は許されるが、それに対して“叫”“让”を使う受動表現において仕手の省略は許されないのだろうか。本研究ではその理由についても検討しようとする。

4. 趙 鑫(上海外国語大学 博士後期課程)

テーマ：場所義格助詞「まで」の本質義への考察—場所義介詞“到”との比較を通して

要旨：許慈恵(2014、2015)の「日本語格助詞本質義仮説」によると、格助詞は文法詞として、前項名詞と後項述語との文法関係を表す。格助詞の多数の意味項目はおのおのの文脈において、本質義の分身として、それを反映するにすぎない。更に、場所義格助詞「まで」にも「ある起点からある終点まで幅を持っている範囲」という本質義があると提唱した。本文は上記の許慈恵の仮説及び認知語義学の理論に基づき、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)、中日対訳コーパス(CJ)、中国言語学研究センターの開発した中国語コーパス(CCL)などのコーパスを利用し、量的研究方法と質的研究方法を統合し、場所義格助詞「まで」の前接名詞と後項述語の語義特徴を分析する。また、中国語の場所義介詞「到」と比較研究を行って、両者の本質義、相互の関連、日中両語における語源、文法化程度及びそれによる語義特徴の差異などを研究する。場所義格助詞「まで」の本質義を検証するうえで、日本語の格助詞に限らなく、中国語の介詞にも本質義があるということを論説する。それは、場所義格助詞「まで」と場所義介詞「到」が日本語及び中国語の構文における位置づけを明らかにするうえで、日本語学習者及び中国語学習者の習得にも有益である。

5. 単 艾婷 (九州大学 博士後期課程)

テーマ：新聞社説における結束性の日中対照研究—省略表現を中心に—

要旨：本稿は、テキスト性を支える構造的な一要因として挙げられる「結束性」のうちの「省略表現」に着目し分析を行い、日中両言語の共通点と相違点を明らかにするものである。新聞社説を資料として、Halliday & Hasan (1976)の分類に基づいて分析を行った。その結果は以下の通りである。日本語の新聞社説では「名詞句の省略」(主語、目的語、連体修飾語)、「動詞句の省略」(述語、名詞止め)、「節の省略」(前文内容)が観察された。一方中国語では、比較的完全文が多く、名詞句の省略(主語、目的語)は少ないが存在する。動詞句や節の省略は今回の調査では殆ど見られなかった。省略表現のうち、特に主語の省略が多かったため、それをさらに「テキスト外省略」「テキスト内—前方省略」及び「テキスト内—後方省略」に分け検討を加えた。日中両言語共に、同じ主語が前の文から次の文や段落に引き継がれる際に、その主語が省かれることが多い。ピリオドを超えて、主語の省略によって結び付けられた2つ(以上)の文は強いまとまり(結束性)を見せる。しかし、他の文に挟まれた時、日本語は主語を省略することができるのに対して中国語は主語を補わなければならない。日本語の主語は中国語より係る範囲が広いことが分かった。

6. 何 龍 (愛知淑徳大学)

テーマ：中国人日本語学習者による三字の漢字語の学習について—二つの意味に分けられるものを対象に—

要旨：三字の漢字語には、「国内外」と「動植物」のような二つの意味に分けられるものが存在する。しかし、先行研究によれば、日本語には、そのような二つの意味に分けられるものがどのくらいあるかは不明なままである。統計が必要となる。さらに、「国内外」は「国内」と「国外」に分けるのに対し、「動植物」は「動物」と「植物」に分けることができるので、その語構造は異なる。中国人日本語学習者にとって、三字の漢字語の存在はどのような影響を与えているかについて、検討しなければならない。そのためには、国立国語研究所が開発した「分類語彙表—増補改訂版データベース」に収録された語彙情報に基づいて、三字の漢字語を抽出し、統計を行った。そして、三字の漢字語「国内外」のような二つの意味に分けられるものに注目して、その数を明らかにする。さらに、中国語の《現代汉语常用词表》に収録された語彙情報を用いて、中国人日本語学習者による、その学習実態について、予測しその分析を日本語学習者コーパスを用いて試みる。

7. 楊玉玲 (北京外国語大学)

テーマ：初級学習階段的汉语习得特点和男女差异—以日本留学生为例

要旨：我们通过问卷调查和采访的形式考察了汉语初级阶段日本留学生汉语习得的特点，分析了男女学习策略的差异及其理由，并在此基础上提出了日本留学

生汉语学习初级阶段需注意的问题。

考察结果表明，日语里的汉字在音、形、意等方面影响汉语的习得，并针对日本留学生听力低下的倾向对初级阶段日本留学生听到汉语时的心理辞典结构进行了推测。

调查还发现在学习策略的使用上女性有比男性多的倾向，除 SILL 量表上的策略以外，还使用其他量表里没有的学习策略。

8. 李美淑（韓国明知大学校）

テーマ：韓国と日本の高校国語教科書の語彙対照

要旨：本稿では『分類語彙表』（1964）に基づき、韓国と日本の高校国語教科書の語彙分布に現れた有意差を通じて両国の社会文化的特徴を明らかにする。

まず、5個の大分類の「全体語数」を見てみると韓国は「人間活動の主體」で、日本は「抽象的關係」で有意差が現れた。これは小・中学校でも一貫した現象でもある。只、小・中学校の場合、他の「生産物及び用具」「人間活動・精神及び行為」「自然物及び自然現象」でも有意差が現れたが、高校では両国とも類似しており、また各項目別語彙の比率も低くなっている。

43個の中分類の「全体語数」の場合、韓国は人間、家族、構成員・職、社会、経済など、14項目で有意差が現れ、日本は「こそあど」のような指示語、同盟・団体、心、創作・著述、交流、燈火、動物など、9項目で有意差が現れた。

以上をもとに、小分類および高頻度語を通じて社会文化的特徴を分析すると次のようである。韓国は夫婦・祖父母・孫・兄弟と関わる広い範囲での親族語彙を数多く使っており、特定人物、人稱語、長、君主、支配階級、税金、給與、所得、仕事、平和・戦争および何らかの生産物などで有意差が現れた。韓国の教科書は個人および家族など、上下関係が守られ、経済及び安保など、実生活を積極的に反映していると言える。一方、日本は家族と関わる語彙は主に「父母」に限られ、特定人物よりは人間全般を指す通稱語や人種、自他、老少分野および臨時的な地位を表す語彙が多く、感情、知識・意見、創作・著述、団体、集い、機械などで有意差が現れた。日本は個人よりは集団を大事にし、支配および上下関係から自由で、現実的な生活よりは人間の感情や精神活動に焦点を当てていると言える。

9. 洪安瀾（閩南師範大学）

テーマ：「が格」の有情物と存在動詞「ある」で作る存在文—中国語訳存在文における数量詞の有無—

要旨：久野暉（1973:53）には、「主語が高等動物である場合、存在を表す「アル」は、その主語が充分長い関係代名詞節で修飾されていない限り、非文法的である。」と指摘、次のように三例をあげた。

i. *京都ニ外人ガアッタ。（在京都有外国人。笔者译）

ii. *京都ニ変ナ外人ガアッタ。（在京都有奇怪的外国人。笔者译）

iii. 京都ニ私ガヨク知ッテイル外人ガアッタ。（在京都有与我相熟的外国人。笔者译）

しかし、文学作品においては、「主語が充分長い関係代名詞節」ではない実例がかなり

多いらしい。

(1) とにかくお客があるとなにはともあれもてなさないわけにはいかないの。(『ノルウェイの森』村上春樹 著 1987)

a. 反正只要有客人来, 就一定非请不可。(赖明珠 译)

b. 反正一来客人就非得忙忙活活招待一顿不可。(林少华 译)

(2) お客があればあり次第、どこにだって泊まるんでございますよ。(『伊豆の踊り子』川端康成 著 1950)

a. 哪儿有客人留他们, 他们就在哪儿住下了。(待桁 译)

b. 哪儿有客人, 就住在哪儿呗。(叶渭渠 译/蒋家义 译)(同じように訳した。)

上記の二例は全部「お客がある」という存在文である。その中国語訳には、名詞“客人”(述語にあたる)にいずれも数量詞が付けられない点が、現代中国語存在文の一般構造(N_{場所}+VP+数量詞+N_物)に反している。

本稿は小説など文学作品から「が格」の有情物に存在動詞「ある」で構成する存在文を集め、中国語の訳文に有情物名詞を修飾する数量詞の有無について調べる。

10. 福本陽介 (名古屋産業大学)

テーマ: 中国語の「動詞+時量詞+(的)+目的語」構文のアスペクト性について

要旨: 本発表では中国語における「動詞+時量詞+(的)+目的語」構文において、述語、または述部のアスペクトしだいで、時量詞の生起可能性に差があると指摘する。

西洋言語学では Vendler (1957)以降、述語のアスペクトを分類した研究が盛んだが、例えば行為を表す「看」という述語を用いた文であっても、目的語しだいで述部の解釈が変わることがある。

(1) 我看了一个小时 (的) 院子。

(2) 我看了两个小时 (的) 電影/书。

(1)は「院子」自体に Huang et al. (2009)の主張するような漸次的主題(Incremental Theme)がなく、限界性(Telicity)を持たないため、述語と目的語が行為(Activity)を表す述部になっていると考えられる。一方(2)の目的語は終結点を持ち、段階を経て映画を見終わる、本を読み終わると解釈できるため、述部全体が達成(Accomplishment)の意味を持っていると考えられる。本研究では主に Kearns (2000)の状態(State)、行為、達成、到達(Achievement)、一回相(Semelfactive)の5分類に基づき、述語・述部と時量詞表現の共起関係について考察する。

11. 高橋弥守彦 (大東文化大学)

テーマ: 連語論から見る中日両言語 —位置移動の動詞“下+客体”—

要旨: 本発表では、位置移動の動詞“下”を対象にして、先行研究と例文を分析することにより、“下”がなぜこのように多様になれるのについて検討する。

(1) 他今天还没下过楼。(『八百詞』p. 365)

彼は今日まだ階下に下りて来ていない。(同上)

(2) 我们早就下过通知了。(『八百詞』p. 365)

我々はとっくに通知を出した。(同上)

(3) 王老师下了课, 就去参加报告会了。(『白水社』 p. 1554)

王先生は授業を終えると、報告会に参加した。(同上)

(4) 男生们一下课, 就跑到操场去踢足球。(『白水社』 p. 1554)

男子学生は授業を終えるや、グラウンドに急ぎサッカーをする。(同上)

(5) 还有十分钟就下课。(『白水社』 p. 1554)

あと 10 分したら授業が終わる。(同上)

中国語の自他(例 1, 2)と多義(例 3, 4, 5)を表す動詞には語彙上の特徴がある。その特徴を明らかにするため、連語論の観点から両者の異同を分析する。なお、本稿では「移動動詞」の有する意味から、移動動詞を有様移動の動詞“走”[歩く]、位置移動の動詞“下”[下りる]、趨向移動の動詞“来”[来る]の 3 類[表 1]に大別する。3 類の移動動詞は単独でも使えるし、くみあわせても使える。

[表 1] 3 類の移動動詞と移動動詞の体系

